

## 会 議 録

会議名 (付属機関等名)	令和5年度 第2回川西市参画と協働のまちづくり推進会議		
事務局(担当課)	参画協働課		
開催日時	令和5年7月27日(木) 午後7時から午後8時半		
開催場所	川西市役所 4階 庁議室		
出席者	委員	岩崎恭典、田中晃代、藤本真里、西原千佳子、松原利明 久保田啓子、大西僚、名畑龍史、丸谷満	
	その他	市民活動センター(男女共同参画センター):指定管理者 三井ハルコスーパーバイザー、吉尾豊スタッフ	
	事務局	井上公室長、西川副公室長、 岸本参画協働課長、山元同課課長補佐、長見同課主任	
傍聴の可否	可	傍聴者数	1人
傍聴不可・一部不可の場合は、その理由			
会議次第	1 開会 2 議事 (1) 川西市参画と協働のまちづくり推進計画素案(計画全体像)について  3 閉会		

19 : 00～

## 1 開会

### ○山元

事務局進行

川西市参画と協働のまちづくり推進条例第 10 条の規定により、本会議は公開となる。

なお、本日は委員が 2 名欠席の連絡をもらっている。

出席委員は、定数 13 名中 9 名（1 名 WEB による出席）

本日は、川西市市民活動センタースーパーバイザー三井ハルコ様、市民活動担当スタッフの吉尾豊様が、オブザーバーとして、出席。

それでは、ここからは岩崎会長に進行をお任せする。

### ○岩崎会長

本日の出席委員は、定数の過半数に達しておりますので、川西市参画と協働のまちづくり推進条例施行規則第 7 条第 2 項の規定により、本日の会議は有効に成立している。

事前にお届けをしました第 3 期参画と協働のまちづくり推進計画（案）についてご意見をいただきたい。

前回は、総合計画についてご意見をいただくことが中心になり、参画と協働のまちづくり推進計画そのものについて必ずしも十分ではなかった。

総合計画の中に自分ごととするということが大々的にうたわれている。その自分ごととするというのを参画と協働でどう表現していくのか、最終的にいかに表現していくか、皆さんにはご意見をいただきたい。

## 2 議事 (1) 第 3 期川西市参画と協働のまちづくり推進計画素案(計画全体像) について

### ○岩崎会長

事務局から説明をお願いします。

### ○山元

資料 1 ～ 3 説明

## ○岩崎会長

第4章まではここで議論してきたこと。

例えば22ページは、みんな気がついたらまちづくりに参加しているっていうこの理念のもとで、どの様にやっていけば良いのだろうか、それが最終的に目標としてどのような指標が設定出来るのかというのが少々難しい部分ではあるが、その指標を設定するためにも、第5章の推進計画の考え方、第6章の推進方策について、今日はみなさんから自由にご意見をいただきたい。

ここでずっと議論している「知る」「興味を持つ」「参加する」というこの3つの段階で分けていている中で、特に「参加する」というところが肝で、自分ごとにするというのが「参加」の中のどの部分までいくのだろうか。「参加する」ということの詳しい内容を、市がこの推進計画の文案を練るときに非常に参考になると思う。

7月27日は推進計画素案の計画全体像について、次に9月10月と推進会議を行い、11月には本体として完成をさせていく段取りにもなっている。今回と9月にみなさんに大いに色々のご議論いただきたい。

＜委員からの発言＞

## ○藤本委員

まずひとつは推進計画指標の欄で、「興味を持つ」の2つめの指標に自治会などの「地域活動に参加している職員の割合」とあるが、市職員は自治会の活動に参加することが、別に興味を持つというレベルではなくて、参画と協働は全ての部署で関係することである。

住民から出てくる色々なアイデアや提案を実現化させていくのが市職員の仕事であり、自分の自治会の活動に参加することではないと思うので、参加するのは良いことですが、それが指標ではないという気がする。

## ○事務局

我々も業務として自治会活動をするわけではなく、そこをどう指標とするのかというのはおっしゃる通りだと思う。

ただ、ひとつは市民の方に自治会に加入して欲しいなかで、職員はどうなのかというのも一定あるかと思う。

2期の時はそういう指標があり、3期においても、我々の方でもこれを入れるかどうか考えているため、今いただいたご意見を参考にしながら違つかたちでどう表現出来るか考えさせていただきたい。

#### ○田中委員

自治会への加入よりは、もう少し地域の中に入って地域のことをもっとよく知っていただきたい。そうすると地域に寄り添った制度も用意できるであろう。そのためにも地域活動に入っていくのを指標に入れるのは良いと思った。

#### ○藤本委員

プライベートで市民活動的な活動をするのは良いことだと思うが、それは市職員として勉強しているのと一緒にあり、この指標は勉強してますかと聞いているのと同じ。市職員として何をしなくてはいけないかを考えると、例えば施策を通して市民グループに何かの支援をすることだと思う。

市職員としてすることと、プライベートでやることは全然意味が違うと思う。

#### ○田中委員

官僚的な役所の職員はいらないと私は思っている。ただ、官僚的というか賢い職員というのは制度を組み立てる時には必要な部分もあるかと思う。

やはり市民活動を取り上げている以上は、活動の神髄を分からないといけないとも思う。

#### ○松原委員

私は今、明峰コミュニティの会長をやっており、その前は自治会長もやっていた。

その立場からお話すると、自治会の加入率が悪い。それは以前から言われてることであ

り、なかなか好転しない。その中であって市役所職員で加入していない人もいるのではないかという話が出る。

### ○岩崎会長

地域の住民のみなさんの感じ方だろうとは思いますが、地域に行けば良いのか、それともそれから学ぶことを、田中先生はそれが日々の業務に関わって生かされるのだから良いのではないのかということ。藤本先生は、自分の仕事をきちんとやっていくという観点から言うと、それと自治会活動の参加は必ずしも関係はない。さて、これをどうするかというのはなかなか難しいところだと思う。

松原委員がおっしゃるように、実際地元感情もあるだろうと思う。ただ、指標にしてしまうと、出なくてはいけないと職員を追い込んでしまう可能性がある。それは本当に良いことなのかどうかもあるだろう。

ただ、自治会加入率はどんどん下がっている。これをなんとかしなくてはいけないというところから言うと、少し考えどころだと思う。

### ○田中委員

藤本委員は指標にしない方が良いという話ですね。

### ○藤本委員

指標にすることは行政の施策の目標にすることだと思う。

### ○田中委員

地域に入り、色々業務に生かすことは良いが、指標にすることに問題があるという話ですね。

### ○藤本委員

市としての目標、施策の目標に自治会加入率悪いから職員が参加すべきという発想は

おかしい。

自治会加入率が低いなら市職員としてやるべきことが多くあると思う。自治会の宣伝を色々な人にやる、違う世代が集る所へ行って、ここの地区の自治会はおもしろいですよ、あなたが言ってること、自治会で実現しますよみたいなことを言うのは良いと思う。

以前、マッチングといったゲームをやっていた。それを推進するのもひとつあると思う。実際加入率も上げないといけないし、そのために職員でしかできない仕事がある。

少し関係して、マッチングをAとBに分かれて2つ提案した。その時、市民の意識の高さに感動した。素晴らしい案が2つ出たと思っていた。もっと市として何かやることがあるのではと思っていた。

### ○岩崎会長

市の「興味を持つ」かな。

### ○藤本委員

きっかけづくりのところに、活動を知るきっかけづくりや話し合いのツールとしてのゲームなどの研究、活用と記載がある。

1、2年もかけて考えて実践までやり、非常に意識の高い市民が集って作った。市はどのように施策に反映させていったかのプロセス、あるいはさせることが難しかったのはなぜか、市民が考えて提案したものなので、もう少し書き方がないかと思う。

すごく良い形でやってきたと思っており、それに対して市役所がどうしたか、今後どうなるのか、施策の中ではこう位置づけていこうとするのが見える方が良いと思う。いかがですか。

### ○事務局

色々議論いただいて、確かに大々的には出来ていないところではありますが、様々な場面でマッチングカード作りをやってみませんか、ということ、会議の場でもさせていただいたことはある。なかなか手が上がらない状況があった。その中で、地味なやり方です

が、個別に聞いていただいて、やりたい、考えたいというところに対して何うことを私の方でさせていただいている。

どれだけ具体的に、項目や表現はもう少し考えたいが、進めていきたいという思いは持っている。そこは書かせていただいた。関わって頂いた委員としてはもちろん、協力いただいた市民の方々についても、もっとやって欲しいという思いはもちろんだと思う。

### ○田中委員

今回のこの計画を見た時に、非常にあっさりと言われている。例えば第2期の推進計画の時にもっと色々議論があったがそれがなかったり、第1章から第2章へのつながりがうまく伝わってなかったり、第4章のみんな、気がついたらまちづくりに参加しているというところは、たぶんグループごとに話をディスカッションしたプロセスがあったはず。

そのプロセス自体がすでに参画と協働だったと思う。その部分が入り込める余地があるのならば書いていただきたい。この会議も参画と協働でやっていると言われて良いと思う。

非常に前回拝見した総計もあっさり系でまとめている感じなので、説明をきちんとしてもらえたら、今までの経験も踏まえて出来るのではないかと思う。

### ○岩崎会長

第2期の部分で特にこの期の前半の部分でやっていたこと、ここで議論したことをもう少し第3期の方策に色々まだまだ入れられることがあるのではないかということになる。

### ○藤本委員

プロセスをこの中に示すことはすごく良いことだと思う。

市役所が呼びかける、それに答えて市民が集る、これもそうですね。提案を出した、その後どう実現してるかっていうのを示すことが推進計画の非常に肝になるところだと思う。参画と協働の推進はその連続だと思う。市民がついていくのは。

## ○岩崎会長

この推進計画あるいはこの項目の中にも見直せる部分が必要だということになるのかもしれない。

指標の話から少し趣を変えて、この推進計画を回すために何が必要なのかということ。

## ○大西委員

資料2、自治会加入率が色んな指標として挙げられているが、結局これが下がると何が1番大変なのか。そこがそもそも分かってない。資料1の9ページに書かれているように、ライフスタイルや外部環境が変わっているという中で、色んな地域の関わり方やあり方も問われていると思う。目的が地域活動に関わるということであれば、自治会もひとつの選択肢ではあるものの、全てではないと思う。となった時に、なぜこの下がり続けてる中で6割を掲げ続けるのかが、6割を切ると大きな問題が起きるのか、その辺が分からない。

## ○事務局

自治会加入率、もちろん加入率というのは加入している人ということなので、これ自体を目標とするのかと思う。

ただ、自治会は地域の中で1番身近な話し合いの場であったり、自分たちの身の回りのことを自分たちで考えていく基本的な団体である。そこに加入していただく方が沢山いることは、地域を良くしたいという方が沢山いるのだということだと思う。

加入してなくても活動している方や地域のこと考えてらっしゃる方は沢山いらっしゃると思う。加入率だけで全てを見るのではなくて、地域で色んな活動してる方の割合も見ていけたらということで、少し考えさせていただきたい。やはり市としまして加入率が全く必要ないとは考えていない。

## ○岩崎会長

自治会というのは地域で活動されている団体でもある。世帯で加入率を計算している。高齢2人暮らしとか単独世帯が増加しているため、単独世帯になると自治会活動は実質あ

まり出来ない。そうすると、加入率は下がっていくのはある意味しょうがない部分ではある。

ただ、だからといって孤立したお年寄りであるとか、何かがあった時に助けを求めるといふ時には、まず第一次的には自治会の役割になる。下がっていることは認識していかないといけないと思う。

### ○大西委員

加入を進める方向であれば、根本を変えていかないとたぶん右肩下がりはずっと続くと思う。参加のハードルを下げるのか、そもそも加入という言葉をも別の概念に変えるのかしていかないと、周知や広報という方法ももちろんあると思う。ただそれだけでこの状況が一転すると考えにくいので、根本的にどこかのタイミングで変えないと衰退していくのではないかと感じる。

### ○松原委員

私のところはまだ加入率が50%~60%あって、何か活動するという時には沢山集っていただいて、みなさん仲が良い。災害のために自治会があるわけではない。一人暮らしの老人がものすごく増えてくる。そういう人たちこそ自治会に入っていていただいて回覧板まわしたり、顔見でお互いの健康状態に気をつける、班長さんが行って何かあった時にこのお家の方はどうだったかが分かる。そういう見える状態であってこそ、近所つきあいが大切。

自治会に入らなくて困ることはないという考え方もひとつあって、その方達が何も地域のことに関わらなくても良いつて言う考え方が多いのではないかという話は聞く。

加入していない人たちは何も困ってない。ゴミを出せたら良いのだが、自治会で決めるルールを守らない。とんでもない時にゴミ出す。勝手に出す。ただ自分はそこで暮らしたらそれで良いという考えはいかがなものか。災害の時だけではなくて、お互いに助け合う部分は助け合う、それが何かの時のためには役立つこともある。そのように考えていただけたら加入率は減ることはない。しかし現実には減っていつてる。

## ○岩崎会長

加入率ではなくて、面識社会が出来ていると感じている人の割合を指標としてとっていくことも良いのかもしれない。そして、それと自治会加入率が両並びであっても良いと思う。

自治会は伝統的に地域のことを担っているので、広報がちゃんと読まれているかどうか、回覧板が読まれているかどうかは別として、そこでの面識社会っていうのは一定の強みはある。下げない努力はしていく必要があるんだろうと思う。ただ、確かに難しいことは難しい。

## ○大西委員

大切だと思う。加入率が出されることよってのポジティブな意見はないと思う。なおさら入らなくなる。下がっているなら自分も入らなくて良い。こういう活動している、活動に参加している人は居る、これだけ地域に貢献していることを指標に挙げていったほうが良い。私もやってみようかとプラスの連鎖になっていく。

## ○事務局

大半が加入してないと分かたら私も加入しない、影響ももしかしたら出るのかなと思う。現状全国平均は6割や5割あるため、参考としては取らないといけない数だとは思う。その中でも上げていきたい数だと市としては思っている。

良くない方への影響もあるならば、いかに見せるのかというのはあります。加入率自体を取らないとかそういうことではないと思う。どのように扱っていくかは考えさせていただけたらと思う。

## ○田中委員

池田市は予算提案制度を作って川西より先手を打って条例を作られたが自治会の加入率が20~30%ときってる状況。やはり北大阪、兵庫このあたりで宝塚も含めて、かなり流動的に人が動いてると、もっと自治会以外の新しい活動が盛んになっているという印象

がある。個人加入がベースになって、同じ家族とか世帯でも違う人なので、そのところを新しい活動のベースが個人になってきているのではないかという印象があります。

### ○岩崎会長

コミュニティは自治会も含んで、そして個人でやるんだということになる。そういう意味で言うと自治会とコミュニティで補完し合いながら地域を考える。コミュニティに参加するっていうと、コミュニティを参加の場として使うということはもう少し書いてあっても良いかと思う。

### ○松原委員

自治会に入らなくてもコミュニティの行事には参加いただいてもいいことになってますので、非自治会員の方にも全戸配布で案内をしたり、イベントをする時の案内もする。総会の時にも自治会員以外の方にもお越し頂いて意見を述べて頂いたりもするが、そういう方が少ないというのが現実。

ただ、クリーンアップなどの行事があった時に、自治会員ではないが参加しますっていう方もおられる。何かのイベントやる時は積極的に出てきてお越し頂くという方は大切な。そういう人たちは表に出てこない。一人暮らしのお年寄りの方やその方達に目を向けるという組織的なものは必要かなという気はしている。

### ○丸谷委員

個人的にも自治会というものの重要性は分かるが、先程の大西委員の発言も踏まえて、本当に自治会の加入っていうもの自体の重要性が分からなくなってきた。まちの美化であったり高齢者の災害時の支援とか、言ってみればその地域に住むとなったらマナーだったりモラルだったりそういう範囲も含まれてくる。

自治会に加入するということの重要性、加入してなくても守られたりするのであれば入らなくていいのではないか。利害と人助けの不一致が起きていくのではないかと今お話を聞いてて混乱してきている部分がある。

自治会は重要、でも時代の流れで変わってきてるのはもちろんある。そもそもそのようにまとめていく話の内容なのかと疑問がある。

### ○岩崎会長

情報が自治会を通じてしか流れてこない状況ではないから、自治会が情報を独占してるわけではない。地域で色々活動しようとする、自分たちでグループも作れるし、自治会で必ずしも活動しなくても良い。色々な意味で多様化してる中でいうと、自治会というものの存在の根拠は何だろうと。

### ○丸谷委員

それと序盤でみなさんがおっしゃってた資料2の地域活動に参加している職員の割合。この自治会などの地域活動に参加って聞くと、クリーンアップの活動に参加していること、夏祭りに行ってお祭りを楽しんだ。イベント開催中でのお客さんになったことも参加ではないかといつも話をしてて、でも先ほど自治会などの地域活動に参加している職員の割合って自治会加入っていうことがベースでみなさんお話されている気がして。

でも、先ほどのクリーンアップには行ってるが自治会には参加してない方は結構いらっしゃる。この目標は自治会加入だけではないのかなと思った。この自治会などの地域活動に参加している職員の割合というのが、自治会加入を促進してるかというところではないのかと。その重要性を思ってるのと実際に行動に移すっていうのがバランスが取れていない。その重要性は何だろうと今さらなってしまった。

### ○岩崎会長

自治会は伝統的に地域活動のひとつの有力な手段であることは確か。あった方が良いでしょうという話。

### ○丸谷委員

同じ方向を見てくれる人や窓口があれば、それぞれバラバラではなくて、しかるべき情

報が絶対に入る道筋があるって重要であると分かると思う。だからこそ、この言葉を今会議で発して、何か解決するのか何か進展するのかって分からなかったが、冷静に聞いた時に少し疑問を持った。

### ○岩崎会長

多様な情報の流れがあって多様に地域活動に参加する部分があることは望ましい。その中の自治会というのもひとつのルートでもあるからそこは大切にするといっても、加入率だけを測るわけではない。自治会の加入率はずっと地域目で見てもらってるから外せない。そこで自分が見守られていると思っている市民の割合や、地域で自己実現出来ていると思っている市民の割合などに焦点を当てた指標であるべきなのかなと思う。

少し指標の話が中心になっているが、この項目でも是非色々ご意見をいただきたいなと思う。特に「参加する」の中での「自分ごととして参加する」ってどういうこと。

### ○田中委員

資料3で、今まで第2期の計画でラウンドテーブルという言葉があったが、この中には入ってない。第2期で出てきた言葉で今回載っていない取組みは、また復活させようって話があれば出てくるのか。

### ○事務局

資料3については、市の方で入れてるものもあるが、今まで審議会の議論の中で出てきたものを拾い上げて作っているかたちになっている。資料1の取組みのところもこの表のものが入っているかたちになっている。今入ってないもので今から入ることももちろんある。個別に例えばラウンドテーブルという単語を使うかどうかは分からないが、市民が集って自由に井戸端会議みたいなものをするということを表現する言葉は入っていくこともあり得るかと思う。

### ○田中委員

地域カルテも他の自治体を見てるとそんなに使ってるところはない。本当に市民にとって必要なか私自身も分からない。今回せつかく改定するので話し合っ決めていきたい。

### ○岩崎会長

経験で言うと、地域カルテで例えばポストの数とかポストの場所や詳細な地域カルテは必要ない。1番必要なのは結局この地域でこれからどれだけ空家が出るか、子どもの数どうなるか、将来に向けての人口推計だけあればそれで良いような気がする。その時にこの坂道を上り下りするのは大変ではないか、買い物の手段はどうなるのかといった時に俺が車を運転するなど次の話になっていけばそれで良いと思う。最低限の情報があれば、ラウンドテーブルみたいところで、まさに市民が自分ごととして動くための情報を用意するのが市だよ。それが地域カルテっていうことなのかなと思う。

### ○田中委員

情報ひとつとってもかなり変革してきているとは思う。フェイス to フェイスの関係がコロナ禍でまた再度重要になってきたっていう発想も出てくる。SNSも重要だし、ズーム会議も活用されたり、飲み会が復活してきたり、大きな時代の中でどう変化してきたのかを考えながらこれを作っていくといけないという気がする。ラウンドテーブルという言葉が良いのか分からないが、情報というひとつの枠組みの中で色んな事が最近出てきているので複雑にはなってくるのかと思う。

### ○岩崎会長

市と市民団体が情報を共有すると書いてあるが、ここが大変だったりする。特に市民同士が情報を共有することの難しさは、すごくあるような気がする。

情報ひとつとっても大変だが、日々の活動の中で「知る」「興味を持つ」「参加する」特に「参加する」をいかに促進するか。

## ○西原委員

福祉委員として活動する中では、コミュニティさんと同じ立場であって自治会員ではないから参加できないということは決してない。ただ、赤い羽根運動の共同募金などは自治会員で集金してもらっている現実がある。それを住民の方に善意の募金を集めるといった流れに少し改善できないかといった提案を市にできないかと多田地区福祉委員会の中で意見が出ている。

地域分権で、市からコミュニティ、コミュニティから自治会へとお金が流れている。自治会員数でお金の金額が出ているのかなと思う。お金があって色々活動が出来る。

何か楽しい企画は全住民さんにアナウンスし、楽しく活動している。ただ、募集するにはやりたいことをしてもらっている。負担感なく楽しく活動してもらっている。大変有り難い。

やらない選択肢もあるので、とても柔軟な活動している。今までの歴史もあるため、責任もあるが、理想と現実があるため皆さんで出来ることをやっている。

## ○岩崎会長

地区の社協で集めるお金は自治会が中心となる。矛盾している部分がある。お金を集めるのは自治会員からであり、サービス対象は非自治会員。お金の流れの部分だけが矛盾しているという状況。これも大きな問題、課題ではある。

## ○久保田委員

この夏休みに子ども向けに工作をやることを今企画している。30軒ほどの新しい家が建ち、その方達は自治会に入っていないが、小さなお子様がおられるのが分かった。自治会に入ってる人は無料で参加、入ってない人は100円という設定で、楽しんでご近所が顔合わせたり、工作を教えてくれる人がいる。地元で親しみを持ってもらうきっかけになるのが良いと思っている。

自治会であったり、近所つきあいであったり、人が生きていくうえに必要なつながりだと思ふ。災害だけでなく。自治会という垣根を作りすぎずに、広く場づくりを設けられな

いかということを決めた。今回のイベントで思った。

自分ごとになるのは、自治会に加入しなくてもコミュニティ一括交付金のことを知らない人でも、何か楽しいことやりますよという手を出して下さる、自然な気がする。自分ごとというのは家族、自分、友人、子どもが居る人は子どもを交えたお料理大会を企画する、絵を書くのが得意な人は絵のコンクールをするであったり。なんとなく自治会入ってる人も入ってない人も楽しかったら参加するみたいな風土が出来ていたら楽しいかなと思った。

### ○岩崎会長

得意なことが地域で発揮できれば良いと思う。

### ○久保田委員

その子も地域でいきいきと成長していくし、親もうれしいし、そういったことを想像した。

### ○岩崎会長

地域に生きていくことの満足感にもつながっていく。自分の得意技、特技とかを生かせる場が地域にあったら良い。それを表に出せば良いと思う。そのためにも面識社会が必要。Zoomでは得意技は言えない。

### ○名畑委員

自治会の役員やっているため、立場的には自治会入って欲しいスタンス。ここで言う「参加する」の参加のレベルが違う。

イベントを企画する側、そのイベントに参加する、全然ハードルが違う。まずその参加することから始めるといったスタンスであるのは共通認識としてあるのかなと思う。例えば自治会でも実はもともと入ってた人がやめていく。結構高齢になったという理由もあるが、会員であればいつか役が回ってくる。役が回ってきた時は出来ないがその時に断りづ

らいため退会する方も結構いらっしゃる。さきほどの参加するハードル低いところと完全に矛盾している。自治会には入ります、自治会費も払います、さっきの社協さんの会費も徴収してるので払います、私は回覧板回すしか出来ないが自治会に入らせてください、そのハードルが低いところを認めていくこともあっても良いと思った。自治会ならそうなるが、他でもどうか。

イベントも強制参加ではない。これしか出来ないといった宣言もできたら、ここしか出来ないアピールみたいなものももう少し許されても良いと思った。

実はPTAとかマンションの管理組合と構図が似てると思う。川西市特に何年前にPTA改革で強制加入をやめましょう、抽選で役を決めるのやめましょうといった取組みがされてた。そのようなことも自治会でも出来ないかと思っている。最初の導きくらいは市に動いてもらえたら、自治会、社協とかうまく行くような気がする。認められるような川西市になったら良いと思った。

### ○岩崎会長

部分的に入っていく、参加については段階的な参加ってこと。それはなかなか難しいところではあるが。

### ○田中委員

ステップとしては「知る」「興味を持つ」「参加する」がベースになっている。次のステップで参画とか協働がうたわれるのか、それともここがベースになるからここを重点的に考えるという発想なのか。計画そのものがそういう名前ですけど、その計画の名前に合わせる必要はないと思う。

参加と参画は全然違う、協働となるとすごくレベル高い。私自身もパートナーシップってなると自分の自治会の加入のこと考えると協働までいかないなと思う。今回どのようなまとめ方にするのかを市の方にお伺いしたい。

## ○事務局

「知る」「興味を持つ」「参加する」この中で取り組んでいくことをもって、参画と協働を進めていくことにしたい。新たに参画のための、協働のためのというよりは、ここであげている取組み事例を積み重ねていき、テーマである「みんな気がついたら参加している」のハードルを下げたところから関わっていく。参画と協働のステップアップになっていくといった議論だったと思っている。今ここに挙げてる取組みを行っていくことで、指標についても目指すところを示していきたいと思っている。

こちらの審議会につきましては、以前から議論も市役所のどこの審議会よりも市民公募の人数沢山来ていただき活発にさせていただいている。取り組んだ経過など示せていないとのご指摘には反省しますが、今後そういうところも取り組んでいきたいと思う。

## ○田中委員

きちんと示してもらったほうが良いと思う。全体で話す時、グループごとに話してまとめて行く時と、行政が入ってホワイトボードを使用しファシリテーションもしてもらった。そういうことを考えると参画と協働のまちづくりを進めようっていうスタンスなので、この冊子の中で、もう少し今までやってきた写真やコラム、あるいは委員の方々の重要な現場のコメントがあったと思う。そこを入れたい。見えるかたちで参画と協働が載っている冊子にした方が良かった。

## ○西原委員

川西市の目指す姿、資料のひとつとして興味を持つとしたら、市民も子育て世代の方、高齢者の方、障がい者の方、それぞれの知りたいこと、興味を持つこと、参加する、それぞれの思いがあると思う。市民をそれぞれの立場の視点にたち項目を考えてもらえたら、福祉委員としてみなさんが何に興味があり何を求めているのか、いつも視点にたち企画し活動している。だからこの市民といっても色々な立場の市民がいるので、そこをもう少し工夫してもらえたらと思う。グループで話をした時に、子育ての方だったらといった意見も多く出たと思う。もう少し詳しく書いて示していただきたいと思った。

## ○岩崎会長

子育ての話は総合計画も子どもの幸せを求めているため比重があっても良いかもしれない。

子育て中のお父さんの話もあるが、学校との関係が出てくる。参画と協働の教育場面が出てくるため、話としては膨らむといった感じがある。地域で子どもを守り育てるという話。

## ○大西委員

前提として自治会を推進しており、365日地域のためにやってくれる方がおられ素晴らしいと思っているが、指標を変えた方が良いと思う。

視点を変えて、ひとつ指標として加えて頂きたい。引きこもり層がすごく増えている。どんどん孤立していく。子育て、障がい、高齢、ヤングケアラー、施設入所いろんな問題がある。

今人口の推定1%と言われているが、法律が変わって基準が変わると数%に上がり、数万人という話になってくる。孤立は進んでいく一方なので、そこは横断的な取り組みが必要だと思う。今後8年間求められてくるため、参画と協働という意味でも必要なところかなとは思う。

## ○岩崎会長

多くの課題が出る一方で、どのようにしていったら良いのか困ったというのが正直なところ。

## ○三井氏

参画と協働に加えてパートナーシップもあるが、これらはひとつの理念だと思う。その理念が川西のまちづくりでどう根付きどう発展し、進展していくかといったことを話しあい検証するのがこの審議会の目的だと思う。

それらがどう進展しているかを継続的な視点で計る尺度が「指標」だと思う。この10

年間くらいで、大きく価値が変わり世の中が変わってきているため、今回の参画・協働の理念の進展のための指標も変わっていかざるを得ないだろう。自治会の捉え方にしても以前と同じではなくなってきていると思い聞いていた。

指定管理事業のセンターは、推進計画や指標に沿って事業をしていくので、どのような指標が出てきて、いかに方向性を考えていくか、事業の企画内容が変わってくると思いつながら興味深く議論を伺っていた。

### ○岩崎会長

センターとして関わって頂いているため、この議論にも積極的に参加してほしい。

それでは、今日も充分議論が尽くせたとはいえない。次回に向けて必要ということがあれば是非メール等でご意見をお寄せいただきたい。次回に向けて、特に自分ごとにしていくためにどういう事が必要なのかは市の方でもう一回議論をしてもらおうということにもなる。ここでの様々な取り組み、あるいはワークショップ等でやったことをもう一度振り返り盛り込んでいく。これまでの議論を総括していただくことが必要なのかもしれないというのが今日の議論であった。本日はここまでとさせていただきたいと思う。

### 3 閉 会

### ○山元

次回の推進会議は、9月22日開催を予定

(20:30終了)